

国際化



- ・ 「Glocal Lesson」 の提供を開始
- ・ 南フロリダ大学の学生が学長を表敬訪問
- ・ 「留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）ワークショップ」を開催
- ・ 令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択
- ・ COP27で地方創生エネルギーシステム研究センターがセミナーを開催
- ・ 本学工学部長および応用生物科学部長がマレーシア国民大学を訪問
- ・ 吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで大学間交流に関する講演を実施



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

「Glocal Lesson」の提供を開始

【概要】

岐阜大学グローバル推進機構は、今年度、動画配信等サイト「Glocal Lesson」の提供を開始しました。

この「Glocal Lesson」は、グローバル人材として活躍が期待される本学学生の国際力の涵養及び国際展開を考える地域企業・企業人等への支援を目的とし、異文化教育に関連するあらゆるコンテンツを、主にオンデマンド形式によるオンライン講義により提供するものです。この仕組みを活用することで、本学学生の自学支援はもちろん、地域企業人等のリカレント教育をより一層容易にします。

「Glocal Lesson」はメンバー登録することでご利用が可能となります。無料会員サービスまたはサブスクリプションによる有料会員サービスによるコンテンツ提供が受けられます。

本学学生・教職員はもちろん、自治体関係者の皆様、企業人の皆様をはじめ、広く社会の皆様も是非、本サービスの利用をご検討ください。



「Glocal Lesson」チラシ

南フロリダ大学の学生が学長を表敬訪問

【概要】

令和4年6月15日、外国人研究者や留学生の渡日が再開したため南フロリダ大学（米国、フロリダ州、タンパ）から岐阜大学に滞在中の、短期交換留学生3人が、吉田学長を表敬訪問しました。公衆衛生大学院生2人とメディカルスクール1人が、岐阜大学保健管理センターで保健管理データの解析研究の指導を受け、国際雑誌への論文投稿をめざしています。

南フロリダ大学と岐阜大学は、1980年代から研究者交流があり、平成28年の部局間協定を経て、令和2年に大学間協定を締結しました。今後、岐阜大学から医学部医学科2人がタンパ総合病院へ臨床研修（4週間）に行く予定です。平成31年まで活発だった交流も、コロナ禍でバーチャル交流（オンライン討論）のみになってしまいましたが、今回の3人の来日は、ポスト・コロナにおける南フロリダ大学との交流再開と言えます。

南フロリダ大学は学生数5万以上の全米最大規模を誇り、カーネギー財団から『常に高いレベルの研究活動と地域振興を行っている公立大学40校の一つで研究大学として一流のレベルにある』と評されています。今後の益々の交流発展が期待されます。



懇談の様子



集合写真

「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催

【概要】

本学グローバル推進機構 日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という）は、令和4年7月27日（水）に「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)オンラインワークショップ」を開催しました。日文センターでは、2005年度からプロの能楽師をお迎えして能楽（能・狂言）ワークショップを行っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一昨年度は録画で、昨年度はオンラインで実施しましたが、今年度は対面とオンラインを併用した形式で開催しました。対面・オンライン併せて約40名の参加がありました。

講師として観世流シテ方の 味方みかた 團まどか先生 および 田茂井たもい 廣道ひろみち先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の 茂山しげやま 忠三郎ちゅうざぶろう先生 および 小齊平こさひら 真路しんじ先生（以上狂言の講師）の計4名を、日文センター和室にお迎えしました。

仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史及び能と狂言の面おもてや所作の違いについての講義、能楽の音楽（楽器と謡）、狂言の泣き・笑いの感情表現、「寝音曲ねおんぎょく」の鑑賞、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容が、テンポよく次々と展開されました。対面参加者とオンライン参加者の双方が楽しめるようにとの講師の先生方の工夫が随所に見られ、対面の臨場感とオンラインの利便性をどう生かしていけばよいかを考える機会ともなり、コロナ後を見据えた新しい形のワークショップとなりました。困難な状況の中、日文センターの歴史ある行事にお力を注いでくださる講師の先生方に心からお礼申し上げます。

今後も、グローバル推進機構では、本物の日本文化に触れる機会を提供する活動を展開していきます。



能と狂言の面



集合写真

COP27で地方創生エネルギーシステム研究センターが セミナーを開催

【概要】

本学地方創生エネルギーシステム研究センターは、令和4年11月8日、国連気候変動枠組条約第27回締約国会議COP27(開催地：エジプトのシャルムエルシェイク)において、セミナー"Aiming for Environmental Friendly and Carbon Neutral System of Desalination and Water Treatment (環境に配慮したカーボンニュートラルな造水及び水処理システムを目指して)"を開催しました。

上宮成之センター長の挨拶と同センターの研究活動紹介に続き、石川薫元在エジプト日本大使がナイル川の汚染問題と両国連携による浄化活動の成功事例を紹介し、同センタープロジェクトマネージャーのDr. Maria R. H. Takeuchiは官学連携プロジェクトの問題点と目標達成のためのリーダーシップについて講演しました。続いてエジプトSouth Valley大学のDr. Khaled Ali Mohammed Ali はエジプトの現状と水問題の原因について、板谷義紀前センター長はカーボンニュートラルな海水淡水化システムについて、京都大学エネルギー理工学研究所の大垣英明教授は環境に配慮したファインバブルを用いた水処理について講演しました。

海外の参加者からはセミナー資料配布の依頼が、日本の参加者からは日本国内で日本語による開催の依頼があり、アカデミアだけでなく、世界中の様々な分野の人々に発信したいと考えています。



エジプト シャルムエルシェイクCOP27会場



上宮成之 岐阜大学地方創生エネルギーシステム研究センター(G-RESRC)センター長



Dr. Maria R. H. Takeuchi G-RESRCプロジェクトマネージャーの講演



板谷義紀 G-RESRC前センター長の講演

本学工学部長および応用生物学部長が マレーシア国民大学を訪問

【概要】

2023年1月4日（水）、5日（木）に、大学間学術交流協定に基づく研究・国際交流活動の一環として、本学の村井利昭 工学部長および光永徹 応用生物学部長がマレーシア国民大学を訪問しました。

本学とマレーシア国民大学（UKM）は、本学工学研究科において国際連携専攻（Joint Degree Program, JDP）を1専攻設置しています。今回の両学部長による訪問は、工学研究科での交流の更なる深化と、食品科学・生物化学系への交流の拡大およびマレーシアでのESL※プログラムの可能性などを探る目的で行われました。

1月4日（水）は、UKMのFaculty of Science & TechnologyおよびFaculty of Engineering & Built Environmentにおいて、各学部の紹介や今後の交流の可能性について会談し、翌5日（木）は、Mohammad Kassim UKM副学長（学術・国際担当）およびTanot Unjah 副国際交流オフィス長（UKM Global）と、現在の交流状況の確認および本学学生が短期で参加できるESLプログラムや、世界展開力強化事業でのJDPプラットフォームにおける連携強化について情報交換を行いました。

今後も、本学の国際化の更なる発展のため、協定先大学の実質的な交流学部の拡大支援や、本学学生が参加できる短期語学・文化研修プログラムの新規開拓を進めていきます。



Faculty of Science & Technologyの学部長と
光永 応用生物学部長



Faculty of Engineering & Built Environmentの
学部長と村井 工学部長



Mohammad Kassim UKM副学長(学術・国際担当)および
Tanot Unjah副国際交流オフィス長との会談後の集合写真

吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで 大学間交流に関する講演を実施

【概要】

2023年1月23日、東京で開催された日印大学等フォーラムにて、吉田和弘岐阜大学学長が日印間の大学間交流に関する講演を行いました。

本フォーラムは科学技術振興財団（JST）が主催したもので、第一回にあたる今回は「日印間の大学・研究機関間交流の強化と今後の課題解決：若手イノベーション人材の育成と交流」をテーマに、インドの10大学、日本の22大学及び関係機関の学長や代表が対面形式でフォーラムを開催し、今後の両国の連携強化に向けた議論を行いました。

第一部では、日印大学学長による各校の日印交流の実績や成果、今後の課題に関する講演が行われました。第二部は円卓会議が行われ、若手人材の育成に向けた課題や大学間連携について意見が交わされました。第一部と二部において、吉田学長は、日印間でジョイントディグリープログラム(JDP)を開設している唯一の大学連携である本学とインド工科大学グワハティ校（IITG）との交流を中心に、JDPの実際ならびに両大学で共創する地域創生高度人材育成（現在進行中の「大学の世界展開力強化事業：インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」）について、話題提供を行いました。

また、第一部に先立ち、吉田学長は本フォーラムに出席のIITG学長P. K. アイヤー教授と面会し、両大学間の教育研究連携について幅広く意見を交わしました。

本学は今後もIITGとの関係を強化していくと共に、今後の両国の連携強化の一端を担えるよう努力していきます。



吉田和弘学長の第一部での講演の様子



吉田和弘学長の第二部での発言の様子



日印大学学長の集合写真